

新潟日報

上越かわらばん

2017年(平成29年)

2月26日 日曜日

<2月27日の上越> 日出6:21 日入17:39 月出6:40 月入18:18 月齢0.5 満潮2:17 15:54 干潮9:35 21:17

制作協力
上越ニックスサービス
TEL.025(523)0293
FAX.025(523)0290
新潟日報社 上越支社内

発行 新潟日報社
新潟日報社 上越支社
業務部 TEL.025(523)9700
FAX.025(523)9736
報道部 TEL.025(523)9725
FAX.025(523)9734
〒943-8545
上越市木田1-2-4

奴奈川姫

ものがたり

土田孝雄

<22>

川崎日香津さんは上越市在住の日本画家である。奴奈川姫や「古事記」と出合い、拙著「奴奈川姫」と建御名方命の母子像や、神話の世界に想いをさせて作品を発表されて

出雲と諏訪と新潟 その3

400人余を緻密に描写

いる。2011(平成23)年には葛根真の「古事記編さん1300年祭記念事業の一環として松江市玉治温泉で、知人の紹介もあって個展を開催した。

この巨大なパネルの一日、歓声を上げながら御柱を曳行する人らに、400人余が緻密に描かれている。奉納前には茅野市立美術館で「諏訪大社奉納記」念川崎日香津日本画展と息子(建御名方神)の絆で結ばれた上越と諏訪



「諏訪大社御柱祭平成御柱曳行之図」の一部

八ヶ岳山麓から延々と人の手で運び出された1本の巨木柱が、終着の神社の片隅に建てられる壮大なドラマを、日本画家の川崎日香津さんは克明に描いた。木柱は神となるという木造り歌が聞こえてくるようだ。

「古事記」編さんから1300年を経た今日、上越、糸魚川地域が諏訪の地で互いに手をとりあって祝い酒で交歓できることは、あまり考えもしなかった。諏訪大社本宮の祈禊所に飾られた川崎さんの作品は半永久的に参拝者の目を惹きつけてくれることだろう。

さらに葛根真出雲大社からも川崎さんに奉納の依頼が舞い込んできた。第2、4日曜掲載

大清水と森公園

歩いて作って
早春楽しんで 11、12日

上越市大湊区湯町の眞立大清水と森公園で3月11日、「週末のくらくウオーキング教室」、12日

に「写真たてづくり」がそれぞれ開かれる。

ウオーキング教室は午前10時～11時30分、初心者向けで、講師は高齢者体力つくり支援士の室岡美穂子さん。雨天時開催

(雨具準備、荒天時は室内で開催)、動きやすい服装、飲み物持参。写真たてづくりは午後1時30分～3時、園内で集めた木の葉で写真たてを飾り付ける。

地域密着だより

定員15人(要申し込み)。申し込み問い合わせは同公園事務所、025(534)6190。

【谷浜・桑取】少子高齢化問題など地域が抱える課題について話し合った。来年度の地域活動支援事業の事前説明会が3月5日午後1時半から谷浜・桑取地区公民館で開催されることを確認した。

